

# 十日町・池谷「地域おこし実行委」

# 総務大臣表彰を受賞

## 「過疎地再生モデル」と評価

十日町市池谷集落活動する市民団体「十日町市地域おこし実行委員会」が、2011年度の地域づくり総務大臣表彰を受賞した。中越地震から復興を遂げ、活性化へ向けた取り組みが「過疎地域の再生モデル」になり得ると評価された。同実行委は3月末にNPO法人格を取得する予定で、法人化を契機に集合住宅建設などに取り組む。受賞を励みにことしも挑戦を続けている。



## 集合住宅建設へ

3月 末に  
NPO法人化

池谷集落は市街地から離れた山中にあり、過疎化が進む。現在は8世帯18人が暮らしているが、震災直後は6世帯19人に減少し、集落の存続が危ぶまれた。

同実行委は住民や都会のボランティアから引人で構成。農業や雪かきの体験プログラム、コメの直販などに取り組む。震災後にボランティアを積極的に受け入れたことがきっかけで、集落を応援する都市住民の輪が広がり、中には集落に移住する若者も現れた。体験や視察などで集落を訪れた人数は昨年だけで約900人になる。

国は東日本大震災からの復興に向け、池谷が

地域づくり総務大臣表彰を受賞した。十日町市地域おこし実行委員会のメンバーら十日町池谷(同会提供)

と評価。代表の山本浩史さん(60)「同市中央」は「被災の」規模が違ふ」と控えめだが、「今後の活動の励みになる」と語る。

一方、移住者の住まいや生活の糧をどう確保するかを課題は少なくない。今後は集合住宅を建設し、集落農家の体制づくりに力を入れる方針。法人化で契約を

公的な助成を受けやすくなるなどの利点を生かす。

目標は持続可能な集落づくり。山本さんは「まだ入り口に立ったばかり。移住者を増やすために、地元で暮らせる環境づくりに取り組むたい」と意欲を語った。

総務大臣表彰の授賞式は7月4日に仙台市で行われる。